只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

（写真・文 緒勝祐太郎）

## 雪上の昆虫

# クモガタガガンボ

（学名：*Chionea* sp.）

【ハエ目ガガンボ科】

▲ 雪上を歩いて移動するクモガタガガンボの一種

ひとしきり降り続いた雪がやみ、静寂に包まれたブナ林。雪上に残された動物たちの足跡が、生きものの気配をかすかに漂わせます。よく目を凝らすと、一時の休息を待ちわびていたかのように、せわしなく動きまわる小さな昆虫たちが目に留まります。

冬にだけ成虫として現れるクモガタガガンボは体長５mmほど、名前の通りクモに似た長い脚をもつガガンボで、ハエの仲間です。大部分の昆虫は翅を４枚（２対）持ち合わせていますが、ハエは飛ぶための翅（前翅（ぜんし））を２枚（１対）しか持っておらず、退化した後翅（こうし）の跡には、こん棒状に変化したもの（平均棍（へいきんこん））がついています。これがハエの基本的な体のつくりです。一方、クモガタガガンボは前翅も退化しており、翅がまったくありません。成虫が冬季に雪上や地表面で生活することから、このような形に進化したのかもしれません。

こうした冬に活動する昆虫にはユスリカやクロカワゲラの仲間も含まれ、これらはユキムシと総称されます。厳冬期、氷点下や吹雪になると、クモガタガガンボは雪と地面の間などに身を潜め、他のユキムシは木の幹や枝葉でじっとしており、穏やかな天候を見計らって活動を始めます。雪に支配されながらも、小さな昆虫たちもまた豪雪を生き抜くための術を身につけていると言えます。

※この広報紙は再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎ 0241(82)5220